

平成27年度 糸魚川市特別活動部 活動報告

部長 谷口 一之

1 研究主題

「望ましい集団活動を通して、自主的・実践的な態度をどのように育てたらよいか」

2 研究の概要

糸魚川市教育研究会の特別活動部員（小・中合同）が、上記研究主題により、各学校で研究実践に取り組む。11月の市教育研究会の一斉研修日の部会で、各自の実践を持ち寄り、研究協議を行い、実践を交流し、深める。また、講師を招いて講話を聴くことにより、自らの実践を振り返り、今後に生かせる研修を積む。

3 研究の実際

5月、研究主題をもとに、各自の今年度の研修についてのアンケートをとり、研究の進め方をまとめた。その後、各学校で、実践に取り組んだ。11月11日の市教育研究会の一斉研修日に特別活動部会を開催し、研修を深めた。

「特別活動部会の研修の概要」

各自の研究主題をうけた実践の報告、発表、協議

- ・特別支援学校では、子ども一人一人のライフスタイルに合わせた学級活動や学校行事等を工夫し、集団生活を通して、社会性の育成に取り組んでいる。
- ・異年齢の集団縦割り班活動に力を入れている。文化祭や集会活動を通して、発表する力を育てている。また高学年のリーダーががんばることで、全校への働きかけがよくなっている。
- ・学校全体で、20年以上アルミ缶回収を行って、地域の施設へ車椅子を贈る活動が続けられている。地域を巻き込み、よい伝統になっている。また、昼休みに全校遊びを定期的に行っている。
- ・地域の方を講師に、ふるさとクラブを継続して行っている。地域を学ぶよさがある。
- ・児童会活動で主体的に活動する子の育成を目指して、縦割り班活動の活性化、委員会活動の精選、代表委員会の充実に取り組んでいる。
- ・学級会で情報モラルについて、年間を通して計画的に学んでいる。ネットトラブル等に、巻き込まれない生徒を育てていきたい。小学校での指導についても、情報交換をしていきたい。
- ・生徒会のリーダー育成のため年間を通しての研修会の実施、もし会長、委員長、部長だったら等をじっくり考えさせて、教員も一緒に協議に加わり、力を伸ばしている。

講話 高野秀樹 様（前能生中学校長）

「人間関係を育む特別活動・・・話し合い活動の充実を目指して・・・」

- ・「育てたように子は育つ」（あいだみつを）改めて、子育て、教育について考えてみたい。
- ・地域、保護者に見放された学校は厳しい、生徒主体でなければ改善、進歩していかない。
- ・保護者、地域へのアピール、生徒と本気、本音の話し合い、事後指導の重要性
- ・学習指導要領で明確にされているのは、「望ましい人間関係」を培うこと、人間関係が基盤である。何が変わったのか、なぜ変わったのかを、十分に理解していくことが重要である。
- ・特別活動を充実させることで、子どもたちの資質や能力の向上につながる。

4 成果と課題

各自の実践を発表、協議し、研修を深めることができた。また、講師の高野様からは、中学校勤務から得たことを分かりやすく、伝えていただいた。今求められている望ましい人間関係の構築に果たす特別活動の重要性が十分理解できた。小・中合同の部会であるため、小・中の連携、つながりの点で、意味のある交流ができています。他の部との兼務もあり、少人数の部会である。学級担任が少なく、授業研究の実施についても課題がある。会員の減少等で部の所属人数を増やすことは簡単ではないが、研修の進め方と合わせて検討していかなければならない。